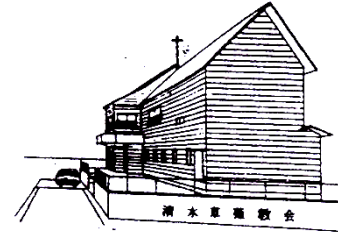


《今朝の聖書から》

この箇所は、先週の続きになります。教えることと学ぶこと、伝えることと聴くこと、どんな道に進むにしても、とても大切なことです。教会の伝統について学びましたが、今朝は、その利点について学びましょう。パソコン教室を行っています、こんな話を聞いたことがありました。“たいした内容のメールは来ないし、だいいち数も少ない”という苦情のような話です。こんな苦情は、誰にでもあると思います。おそらくその原因は、この苦情のヌシにあるようです。“沢山情報を出す人のところにはたくさんの情報が来る”ものです。たくさん教えた人は沢山教えられるのです。人を豊かにする方法について聖書は、幾度も“神こそ主であることについて教えなさい”と語っています。また質問することの大切さも教えています。“努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない(6:7)”とあります。シエマ・イスラエルという言葉があります。“イスラエル! 聞きなさい”という意味です。これらにことは神様についての知恵であると同時に、神様について知っている人々の知恵なのです。出エジプト記の初めに“ここに、ヨセフのことを知らない、新しい王が、エジプトに起こったと(出エジプト1:8)”とあります。ところがイスラエルの人々は、ずっと自分たちの歴史を守り通してきました。何百年もつたえられ続けてきたのです。私たちも、伝えなくてもよい、すなわち大いに忘れても構わないことをはっきりさせたいものです。そうすれば伝えなくてすみませし、忘れてしまいます。神様の救いの道を伝えるためには、教える人が、まず何を教えているのかを知らなければなりません。形骸化という言葉があります。形や作法だけが残って、なんの意味も分からなくなってしまうことをいいます。マンネリという言葉もこのように説明されるでしょう。教会というところには、マンネリというものはありません。常に新しいということです。どういことでしょうか。言い換えれば、常に教えられ続けるということでしょう。そしてこのことは教える人を豊かにすることです。“もしわれわれが、命じられたとおりに、このすべての命令をわれらの神、主の前に守って行なうならば、われわれの義となるであろう(6:25)”が結論です。私たちは多くを聞きたいとばかり思いますが、それは教え伝えることから始まるのです。大切なことについて多くを教え、伝えましょう。

週報

2008年 6月 8日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会の会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸